

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復実技14							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・夜間部	3年	1・2期	鴨田 佳典		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	柔道整復実技			実技	1	20	
科目概要							
柔道整復師として身につけておくべき基本的な実技実習を行う。特に柔道整復師の施術所で多く見受けられる 肩関節および、膝関節、足関節の軟部組織損傷を中心に取り上げ、それら疾患に対応すべき検査法、整復法(一部)、固定法の技術を習得する。なお、各種手技を習得するためには多くの身体的な特徴を観察すべきであるため、学生間で 共に学習できるような方法を提案し展開していく。							
目標							
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	柔道整復師として必要な軟部組織損傷の固定法、検査法の目的を正しく理解した上で、基本的な固定法、検査法が正しくできるための問診、視診、触診法の技術を習得する。						
	到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	1. 様々な上肢・下肢疾患に対応しての検査法の技術が習得することができる 2. 様々な上肢・下肢疾患に対応しての整復法・固定法の技術が習得できる 3. 様々な上肢・下肢疾患に必要な基本的な包帯法の技術が習得できる					
履修に必要な予備知識や技能							
各種骨の名称、関節の名称、骨格筋の名称等を予備知識として覚えておくようにすること。							
教科書・参考書							
『柔道整復学・理論編 第6版』(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)、『柔道整復学・実技編』(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)							
受講上の注意							
講義中に携帯端末による検索は行わないこと。指輪・ネックレス・イヤリングなどは身につけないこと。手指の爪は、切り整えてから参加すること							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (クイズ/テスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)				100			100
実技試験実施要項							
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	肩腱板損傷			実技 pp257-262	教科書、筆記用具		
第2回	上腕二頭筋長頭腱損傷			実技 pp264-266	教科書、筆記用具		
第3回	ハムストリングス損傷(肉ばなれ)			実技 pp360-366	教科書、筆記用具		
第4回	大腿四頭筋打撲			理論 pp380-381	教科書、筆記用具		
第5回	肩部損傷、大腿部損傷				教科書、筆記用具		
第6回	膝関節側副靭帯損傷			実技 pp376-377	教科書、筆記用具		
第7回	膝関節側副靭帯損傷の固定			実技 pp376-377	教科書、筆記用具		
第8回	膝関節十字靭帯損傷			実技 pp366-375	教科書、筆記用具		
第9回	膝関節半月板損傷			実技 pp382-385	教科書、筆記用具		
第10回	膝部損傷				教科書、筆記用具		
第11回	下腿三頭筋損傷(肉ばなれ)			実技 pp387-389	教科書、筆記用具		
第12回	足関節外側靭帯損傷			実技 pp703-704	教科書、筆記用具		
第13回	足関節外側靭帯損傷の固定			実技 pp703-704	教科書、筆記用具		
第14回	足関節外側靭帯損傷の固定			実技 pp703-704	教科書、筆記用具		
第15回	アキレス腱断裂の固定			実技 pp398-399	教科書、筆記用具		
第16回	アキレス腱断裂の固定			実技 pp398-399	教科書、筆記用具		
第17回	下腿損傷、足部損傷				教科書、筆記用具		
第18回	試験				教科書、筆記用具		
第19回	試験				教科書、筆記用具		
第20回	まとめ				教科書、筆記用具		
実務経験と本講義との関連について							
柔道整復師として接骨院に勤務。医療機関での実務経験をもとに講義します。							
メールアドレス							
kamoda@nihonisen.ac.jp							